

# 資格の大原

## 第43回 社会保険労務士試験 予想合格ライン・集計結果

予想合格ラインは、全国合格率を8%程度と仮定して、大原独自の解答予想及び採点サービスをご利用された方の得点集計に基づき設定したものです。社会保険労務士試験センターより公表される合格基準と一致することを保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。

### 予想合格ライン

	選択式	択一式
総合基準点	25点以上	45点以上
科目別基準点	各科目3点以上（ただし、労働者災害補償保険法及び社会保険に関する一般常識は2点以上）	各科目4点以上

### 選択式試験 集計結果

		基 安	労 災	雇 用	労 一	社 一	健 保	厚 年	国 年	合 計	合格率
H23 年	平均点	3.4	2.5	4.2	2.9	2.5	4.2	3.6	3.5	26.8	—
	2点以下	19.5%	47.8%	10.4%	29.6%	48.5%	7.4%	19.8%	23.8%	—	
H22 年	平均点	3.7	4.0	4.3	3.6	3.0	3.3	2.7	2.1	26.7	8.6%
	2点以下	11.4%	9.2%	7.9%	8.4%	31.8%	19.8%	44.9%	59.8%	—	
	基準点	3	3	3	3	2	2	2	1	23	
H21 年	平均点	2.6	3.1	4.4	3.0	3.9	4.7	4.1	4.4	30.2	7.6%
	2点以下	36.4%	28.4%	5.2%	31.3%	10.9%	6.3%	13.7%	5.9%	—	
	基準点	2	2	3	3	3	3	2	3	25	
H20 年	平均点	3.5	3.6	4.2	3.3	4.3	2.5	3.2	3.1	27.7	7.5%
	2点以下	8.9%	14.6%	7.9%	18.3%	7.1%	48.2%	27.1%	29.3%	—	
	基準点	3	3	3	3	3	1	2	2	25	
H19 年	平均点	4.1	3.9	4.6	3.1	3.5	4.5	4.5	3.8	32.0	10.6%
	2点以下	4.3%	9.0%	0.9%	28.7%	12.8%	4.3%	4.6%	9.6%	—	
	基準点	3	3	3	3	3	3	3	3	28	
H18 年	平均点	3.5	2.6	3.9	4.3	2.5	4.1	3.6	4.1	28.6	8.5%
	2点以下	18.3%	47.2%	15.4%	10.2%	57.0%	8.4%	19.0%	7.1%	—	
	基準点	2	2	2	3	2	3	2	3	22	
H17 年	平均点	2.5	3.7	4.5	3.4	4.3	4.7	3.7	3.9	30.7	8.9%
	2点以下	49.5%	9.4%	6.3%	15.3%	4.4%	3.7%	14.8%	9.3%	—	
	基準点	2	3	3	3	3	3	3	3	28	
H16 年	平均点	3.4	4.2	4.3	3.8	4.0	2.7	3.7	3.4	29.5	9.4%
	2点以下	12.7%	8.3%	11.2%	12.5%	7.1%	41.4%	13.8%	20.2%	—	
	基準点	3	3	3	3	3	1	3	3	27	

※ 「平均点」は、大原採点サービス利用者の得点による平均点である。

※ 「2点以下」は、大原採点サービス利用者の全体に占める2点以下の得点であった者の割合である。

※ 「基準点」は、社会保険労務士試験センター公表の合格基準点である。

## 選択式試験 問題別正答率

	基安	労災	雇保	労一	社一	健保	厚年	国年
A	90%	75%	83%	14%	48%	95%	58%	61%
B	28%	90%	83%	83%	55%	84%	84%	63%
C	74%	68%	78%	14%	20%	84%	78%	85%
D	75%	11%	83%	78%	65%	64%	48%	46%
E	68%	10%	86%	95%	65%	91%	86%	89%

### 講評

総合点の平均点をみると26点台に留まっており、過去と比べて、平成22年に次ぐ難度の高さであったことを示している。5点満点を狙える平易な科目は雇用保険法と健康保険法のみであり、他の6科目は少しでもミスをするると3点確保も難しくなる難度であった。内容面をみると、労働科目では、判例や通達、労務管理のキーワードを現場で考えさせる思考力を問う問題が多く、一方、社会保険科目では、数字や施行規則などの知識力を問う問題が多かった。これは近年の傾向である。

科目の中で、難度が高かったのは労働者災害補償保険法と社会保険に関する一般常識である。労働者災害補償保険法は、本年改正論点である「外貌の醜状障害に関する障害等級認定基準」についての通達からの出題である。法改正点として概要を把握していたものの、細部までの学習をしていなかった受験生が多かった模様で、採点サービス利用者の平均点は最も低くなっている。しかし、空欄ABCは、現場思考で対処できる性質の問題であるため、3点以上の確保は困難でも、2点を確保することができた受験生は多い。

社会保険に関する一般常識は、介護保険法の「要介護認定」にかかわる細部からの出題であった。「要介護認定」自体は主要論点であるが、過去本試験問題（選択・択一とも）で出題されたことがない論点であったこと、ミスを誘いやすい誤りの選択肢が設定されていたことから点数は取りづらかった模様で、平均点は労働者災害補償保険法と同程度の低さであった。また、現場思考で対処する余地が狭い性質の問題であったため、3点を確保することができなかった受験生は労働者災害補償保険法よりも多かった。

前2科目に次いで難度が高かったのが労働に関する一般常識である。平成13年以来の労務管理からの出題で、事前に選択式対策として準備をしていた受験生は少なかったと考えられる。ただし、選択肢が四択に設定されていること、空欄BDEは文脈から現場思考で対処することも可能であることから、知識として知らなくても3点確保することができた受験生も多かったようである。

### 総合基準点予想

過去の平均点と合格基準点の関係、得点分布をかんがみて、合格基準点を「25点以上」と予想する。

### 科目別基準点予想

過去に基準補正された科目の平均点・2点以下割合を基準に考えれば、労働者災害補償保険法、社会保険に関する一般常識で、基準補正が行われる可能性がある。なお、これらの科目に次いで労働に関する一般常識の難度が高いが、過去、同程度の難度で基準補正されなかった年・科目もあることから、前2科目に比べて基準補正の可能性は低い。労働基準法及び労働安全衛生法、厚生年金保険法、国民年金法も難度はやや高いが、基準補正の可能性は低い。他の科目については、基準補正の可能性は極めて低い。

## 択一式試験 集計結果

		基 安	労 災	雇 用	一般常識	健 保	厚 年	国 年	合 計	合格率
H23年	平均点	6.8	7.2	6.3	5.4	7.1	6.0	5.6	44.4	—
	3点以下	5.2%	5.0%	9.1%	10.3%	6.0%	11.7%	13.8%	—	
H22年	平均点	7.5	6.7	7.3	5.3	6.5	6.0	6.7	46.0	8.6%
	3点以下	2.6%	6.8%	4.3%	11.6%	6.8%	12.1%	6.6%	—	
	基準点	4	4	4	4	4	4	4	48	
H21年	平均点	6.7	6.0	6.0	5.8	6.2	6.4	7.0	44.1	7.6%
	3点以下	2.5%	12.3%	12.8%	10.4%	9.8%	10.3%	5.6%	—	
	基準点	4	4	4	4	4	4	4	44	
H20年	平均点	7.0	6.4	7.0	7.1	5.3	5.6	7.1	45.5	7.5%
	3点以下	3.9%	7.8%	6.7%	3.3%	10.7%	16.7%	9.0%	—	
	基準点	4	4	4	4	4	4	4	48	
H19年	平均点	5.3	6.4	7.3	7.0	6.5	6.6	5.9	45.0	10.6%
	3点以下	11.7%	6.7%	3.2%	2.7%	4.8%	5.3%	12.1%	—	
	基準点	4	4	4	4	4	4	4	44	
H18年	平均点	4.7	7.1	7.0	5.4	6.0	4.8	6.4	41.4	8.5%
	3点以下	23.7%	5.5%	7.3%	19.1%	13.5%	18.9%	8.3%	—	
	基準点	3	4	4	3	4	4	4	41	
H17年	平均点	5.6	6.3	6.8	5.2	5.6	5.9	6.3	41.7	8.9%
	3点以下	9.3%	10.5%	8.6%	13.6%	13.2%	12.0%	15.0%	—	
	基準点	4	4	4	4	4	4	4	43	
H16年	平均点	6.8	5.9	7.6	6.0	4.1	3.9	5.0	39.3	9.4%
	3点以下	10.6%	13.2%	8.5%	9.1%	33.2%	41.2%	22.0%	—	
	基準点	4	4	4	4	3	3	3	42	

※ 「平均点」は、大原採点サービス利用者の得点による平均点である。

※ 「3点以下」は、大原採点サービス利用者の全体に占める3点以下の得点であった者の割合である。

※ 「基準点」は、社会保険労務士試験センター公表の合格基準点である。

## 択一式試験 問題別正答率

	基安	労災	雇保	常識	健保	厚年	国年
問1	80%	78%	78%	77%	73%	51%	73%
問2	86%	95%	73%	33%	76%	74%	32%
問3	74%	79%	85%	47%	83%	73%	29%
問4	78%	62%	27%	54%	82%	55%	86%
問5	71%	64%	56%	64%	80%	51%	70%
問6	39%	46%	31%	82%	76%	29%	50%
問7	78%	91%	86%	40%	21%	44%	56%
問8	85%	76%	87%	54%	70%	93%	67%
問9	42%	63%	28%	82%	70%	60%	70%
問10	41%	67%	77%	11%	79%	67%	28%

### 講評

全体の問題の難度は例年並みであった。

科目別をみると、高難度の科目はなかった。ただし、一般常識については、労働に関する一般常識（問1～問5）中に通常の学習範囲外からの出題が多く得点を取りづらかったため、社会保険に関する一般常識（問6～問10）中の基本論点を取りこぼすと、最低基準点の確保が困難となる恐れがある。また、国民年金法は、全体としては例年並みの難度という印象を受けるが、難度の高い選択肢が正解肢として配されている問題（問2、3、10）があるため、これらを失点した上で、かつ、他の基本論点をとりこぼすと、最低基準点の確保が困難となる恐れがある。

### 総合基準点予想

過去の平均点と合格基準点の関係、得点分布をかんがみて、合格基準点を「45点以上」と予想する。なお、この予想点は、選択式科目別基準点の補正科目を「労働者災害補償保険法及び社会保険に関する一般常識は2点以上」と仮定して算出したものであり、同補正科目の種類・数が異なれば、択一式の合格基準点の予想も以下のように変動する。

選択式補正科目	択一式総合基準点
労働者災害補償保険法、労働に関する一般常識及び社会保険に関する一般常識は2点以上	48点
労働者災害補償保険法及び社会保険に関する一般常識は2点以上	45点

### 科目別基準点予想

過去に基準補正された科目の平均点・3点以下割合を基準に考えれば、全科目「4点以上」の基準となる可能性が高い。比較的、一般常識、国民年金法の難度が高いが、過去同程度の難度で基準補正されなかった年・科目もあることから、基準補正の可能性は低いと予想する。他の科目については基準補正の可能性は極めて低い。